

1

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

このところ、天候が不順である。曇り空を見る機会が多い。つい先日、散歩の途中でみるみる空模様が怪しくなってきた。空一面が雲で、^aオオわれた。これがあたかも、⁽¹⁾水墨画を見るような雲で、思わずスマートフォンを取り出してカメラに収めた。

そうするあいだにも、刻々と雲の様子は移り変わり、さらにもう一枚、撮ってみたところ、今度は彫刻作品を思わせる立体的かつ抽象的な連なりになった。

見上げれば見上げるほど、単純な言葉では表現できない。大げさに云うと、無限の階調によって、^bイロドられていた。

いや、これはあながち大げさでもない。日本には「四十八茶百鼠」という言葉があり、これはつまり、茶色は四十八種類、鼠色は百種類もの色あいがあるという意味だ。ただし、この数は言葉の綾で正確なものではなく、実際は、いずれも百を超える種類がある。

「でも、鼠色は鼠色でしょう」と云うことなかれ。色見本帳をひもとけば、「葡萄鼠」「桜鼠」「利休鼠」と、ひとつひとつにしっかり名前までついている。

この「百鼠」がどうして誕生したかという点、江戸時代に発令された奢侈禁止令すなわち「庶民は贅沢をしてはいけません」という御触れに⁽²⁾を発している。このとき、江戸の庶民は着物の色や柄に豪華な色を使うことを禁じられた。しかし、江戸っ子は庶民こそが洒落者で、「色を禁止するなんて野暮な話だねえ」と御上に反発したくなった。

そこで生み出されたのが「百鼠」である。使用を許された数少ない色のひとつである鼠色に、少しずつ色を加えてバリエーションをつくった。ひとつくりにすれば「鼠色」だが、そのグレー・トーンの中に微妙な色のニュアンスを楽しむことを覚えた。

「派手な色なんてみつももない。本当に⁽³⁾粋なのはモノトーンだ」と逆手にとってみせたのである。

こうして江戸時代の人たちは、カシコいものをたくさん発明したが、たとえば、あのジャンケンというものも、江戸の終わりに日本で生まれたと云われている。云うまでもなく、グレー、チョコキ、パーと三つの手のかたちで勝敗を決めるわけだが、パーがグレーを制するのは誰しも思いつきそうなこと。ここで讀みたいのはチョコキの発明である。

あたりまえだが、グレーとパーだけでは勝負にならない。そこへチョコキという第三の手が加わったことで、ジャンケンはじつにシンプルかつ奥深い遊戯になった。

この「三番目」の存在が気になる。

というのも、この世にドラマをもたらしているのは、いつでも、「三番目」ではないかと思われるからだ。

なにことも、一対一では カド^d が立つのである。第三の男が公平な目でジャッジするべきで、それでも片づかないときは、助っ人や後ろ盾といったものが必要になってくる。でなければ、いつまでも 睨み^{にら} 合ったままになり、三人目があらわれないことには、「過半数」という言葉も生まれてこない。言葉の上で云えば、「三」の効用を説いたものに、「三人寄れば文殊の知恵」という諺^{ことわざ}がある。あるいは、「三度目の正直⁽⁴⁾」というのも、よく耳にする言葉だ。

もちろん、いいことばかりではなく不都合なこともあって、三人で将棋はできないし、麻雀^{マージャン}もできない。男前を キソウ^e 世界において、「三枚目」といえば、一段下に見られた道化役と決まっている。

もつとも、仏像を拝観したときに気づくことだが、脇侍^{きょうじ} と呼ばれる引き立て役が両脇にすることで、はじめて中心となる仏様が際立ってくる。デュオに中心人物はいないが、トリオが横並びになれば、自ず^{おの} と「センター」が生まれてくる。

これは 翻⁽⁵⁾ して云うと、優劣がより明確になるということでもある。男女の三角関係にも通じるところがあつて、二人だけならうまくいっていたのに、「三人目」が加わったことで、事態は、何ともややっこしいことになってくる。

三という数字は二つに割りきれないがゆえに複雑な状況を生み、その一方で、割りきれないがゆえに、決まりきったものにあたらしい展開をもたらし。

グーでもパーでもなく、右でも左でもなければ、白でも黒でもない。

白と黒のあいだには百通りの鼠色を育んだ豊かな可能性がある。

とかく「白黒はつきりしない」と揶揄^{やゆ} され、「グレー・ゾーン」と云えば、曖昧であつたり、疑わしいときに用いられるのが常だが、白黒はつきりしない美しさもあるのだと、曇り空を見上げながら考えた。

(吉田篤弘「三」の効用」光村図書出版による)

問(一) 傍線部 a～e のカタカナにあたる漢字と同じ漢字を含むものを、各群のうちから一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

a = 1

b = 2

c = 3

d = 4

e = 5

a
オオ|われた

- 1 腹痛を訴える。
- 2 風邪薬を服用する。
- 3 全幅の信頼を置く。
- 4 話が重複する。
- 5 覆水盆に返らず。

b
イロ|ドられ

- 1 歳月人を待たず。
- 2 異彩を放つ。
- 3 森林を伐採する。
- 4 木材を満載する。
- 5 大会を開催する。

c
カシ|コい

- 1 賢明な判断をする。
- 2 社長を兼務する。
- 3 社会に貢献する。
- 4 謙虚にふるまう。
- 5 新人社員の研修を行う。

d
カド|が立つ

- 1 核心をつく。
- 2 道路を拡張する。
- 3 隔世の感がある。
- 4 互角の戦いだ。
- 5 的確に説明する。

e キソウ

- 1 歯並びを矯正する。
- 2 逆境に耐える。
- 3 二社が競合する。
- 4 やむなく妥協する。
- 5 脅迫に屈しない。

問(二) 傍線部(1)「水墨画を見るような雲」の「ような」と意味・用法が同じものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 6

- 1 転んだとき、足をくじいたような気がする。
- 2 私の叔父さんのような頑固な人も珍しい。
- 3 人に後ろ指を指されるようなことはしていない。
- 4 宝石を散りばめたような満天の星だ。
- 5 約束の時間に遅れるようなら、連絡しなさい。

問(三) 傍線部(2)「()を発している」の空欄()を補うのにふさわしい漢字を、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

- 1 担 7
- 2 単
- 3 端
- 4 短
- 5 誕

問(四) 傍線部(3)「粹」の対義語が本文中にあります。それはどれですか。次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 8

- 1 単純
- 2 奢侈しゃし
- 3 洒落しゃれ
- 4 豪奢ごうしや
- 5 野暮

問(五) 傍線部(4)「三度目の正直」の意味としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 9

- 1 言行が三度一致すれば正直者として認められるということ
- 2 物事は三度目には期待通りの結果になるということ

- 3 同じことが二度あると、もう一度起こりうるということ
- 4 正直者は今は不遇でも、いつか必ず報われるということ
- 5 二度うまくいっても、三度目もうまくいくとは限らないということ

問(六) 傍線部(5)「翻して」の本文中での意味としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号を記しなさい。

10

- 1 ざつくばらんに
- 2 別の角度から
- 3 単純明快に
- 4 元に戻して
- 5 蛇足ではある

2

次の文章はイタリア史を専門としイタリアに住んでいる作家によるものです。これを読んで、後の問いに答えなさい。

二〇一四年も終わりに近づいた現時点から見ても、来る二〇一五年もまた⁽¹⁾数多の難問に直面せざるをえないことだけは確かなようである。(イ)、二〇一四年に起った問題のほとんどが、解決のきざしすら見えない状態で残っているからで、そうなってしまった原因は、樹を見るのに熱中して森を見ることを忘れたために、単なる問題であったものも難問化してしまい、ゆえに二〇一五年もそれらをすべて引きずることになるからである。

人間世界にとつての「森」は、つまり最高の目的は、平和の樹立にあると思っている。「樹」は、その目的に達するための手段にすぎない。にもかかわらず人間とは、樹を前にしただけでどう枝葉を切り払うべきかで意見が分裂してしまい、言い争っているうちに樹は森の一部でしかないことを忘れてしまう。これを、「手段の目的化」という。「手段の目的化」による最大の^a弊害は、問題が横道に横道にと逸^それていることに、誰もが気づかなくなってしまうことなのだ。⁽²⁾ニツチもサツチも行かなくなってしまった難問とは、手段の目的化の結果にすぎない。ウクライナ問題しかり、パレステイナ問題しかり、EUの経済政策しかり、そして日露・日中・日韓をめぐる諸々の問題もしかり、である。

(ロ)、平和の樹立こそが至高の目的とは言っても、いかなる犠牲を払っても成し遂げることまでは意味しない。歴史に親しむ歳月が重なった今、痛感していることが二つある。

第一は、人間とは、たとえ五十年間であろうと平和さえ保証されれば、相当な成果をあげる能力を持っているという、歴史上でも立証されている事実。

第二は、とは言えこうも生産性を高めることのできる平和とは、自由な精神の活動も同時に保証された状態での平和であり安定でなければならぬということ。

私の家の近くに、皇帝アウグストゥス広場という名の広場がある。この初代皇帝が建造させた皇帝^(注1)廟^{びやう}を中心に、テヴェレ河に面した一方にはこれまた彼が建てさせた「平和の祭壇」(アラ・パース)を、^(注2)ムツソリーニが移築し、残る三方の二辺ともを古代ローマ式の円柱が立ち並ぶ回廊^bづくりにした一画だ。(1)

ムツソリーニのローマ帝国への憧れはわかるが、そこを行き来するたびに考えてしまう。なぜ古代ローマ時代の円柱に比べて、ファシズム時代の円柱は神経が通っていない、浮彫りもモザイク画も稚拙な出来なのか。⁽³⁾なぜ、二千年も過ぎていのに、この程度のものしか作れなかったのか。第二次世界大戦に突入するまでのイタリアは、一応にしろ平和であり国内もそれなりに安定していたのである。だが、イタリア人の才能が最も効果的に

発^C揮される造型分野での成果はこれだった。古代ギリシアの^(注3)スパルタも、長い歳月にわたって国内は安定していたのである。それでいて、後世には何ひとつ遺²⁾せなかつた。(2)

一国の統治者が最も心しなければならぬのは、このことではないかと思う。(ハ)、自由な精神活動は保証しつつも全体としては前に進むというだけで、「樹は見つとも森を見ることだけは常に忘れない」という心がまえ、と言い換えてもよい。(3)

しかし、私もふくめた多くの日本人は、彼らのような公的な地位は持たず権力も持っていない。そのわれわれでも、「樹を見て森を見ず」に墮さないで済むにはどうすればよいのか。(4)

まず、情報やデータなるものは頭から信じないことである。つまり、これらには常に距離を置いて臨む。樹を前にしてケンケンゴウゴウやっている人々を、離れた場所から眺めているということだが、これが情報洪水の現代ともなると大変にむずかしい。(二)、⁽⁴⁾物理的に断つ、という方法に訴えるしかない場合もある。なにしろ、放つて置くだけで、情報やデータの津波に流されてしまうほうが普通の時代に生きているのである。流されなければ安全な場所に逃げるしかなく、その安全な場所が意識して断つことだが、それでもこれに努める価値は、充分にあると思う。(5)

第一に、問題の本質を、つまり「森」を見失わないため。第二は、樹を前にして激論し合っている人々はそれをするだけでおカネを稼いでいるのに、稼いでもないいわれわれまでが彼らに合流し、いつの間にかやらの問題が横道にそれていることによる弊害までも、ともに引つかぶる必要はないと思うからである。情報過剰時代に生きるうえで、自己防衛策としてもよい。

そして、この種の自己防衛策さえ打ち立てれば、国政担当者たちにとくに見られる、「樹は見つとも森を見ることも忘れていない」やり方に敏感に反応し、それに支持を与えることもできるようになるのではないか。距離を置くとか頭から信じないという考え方は、我関せず、とは同じではないのである。

とはいえ、⁽⁵⁾私が勧めているのが実に困難な方法であるのはわかっている。何であれ信じてしまうほうが、精神的にはずっと楽チンなのだから。(ホ)、一年の最初ぐらいはむずかしいことに頭を使ってもよいのでは、と思う。アリストテレスも言っている。人間は⁽⁶⁾政治的動物である、と。つまり人間は、やり方次第では、政治的人間にもなれるが、政治的動物にもなりかねない「アニマル」なのである。「樹を見て森を見ず」では、「政治的動物」になってしまう。政治的であろうと何であろうと、「人間」として生きたいとは思いませんか。

(塩野七生^{ななみ}『逆襲される文明 日本人へⅣ』文藝春秋による)

(注1) 廟に祖先・先人の霊を祭る建物。

(注2) ムツソリーニニ一八八三〜一九四五年。イタリアの政治家。国家ファシスト党を結党し、独裁体制を敷いた。
 (注3) スパルタニ古代ギリシア時代の都市国家。

問(一) 傍線部a〜cの漢字と同じ読みをする漢字を含むものを、次のうちから一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

- | | | | | | | | | |
|---|----|-----|----|-----|----|-----|----|-----|
| a | | 1 | b | | 2 | c | | 3 |
| a | 弊害 | (1) | 併記 | (1) | 破綻 | (2) | 進捗 | (3) |
| b | 回廊 | (1) | 惑溺 | (2) | 旺盛 | (2) | 怨恨 | (3) |
| c | 発揮 | (1) | 葛藤 | (2) | 亀裂 | (2) | 希有 | (3) |
| | | | | | | | 罵倒 | (4) |
| | | | | | | | 翻弄 | (4) |
| | | | | | | | 牙城 | (5) |
| | | | | | | | 潰滅 | (5) |
| | | | | | | | 汎用 | (5) |

問(二) 空欄(イ)〜(ホ)を補うのにふさわしい言葉を、次のうちから一つずつ選び、その番号をマークしなさい。(同じ番号を二度以上選

- んではいけません。)
- | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|-----|------|-----|--|---|
| イ | | 4 | ロ | | 5 | ハ | | 6 | ニ | | 7 | ホ | | 8 |
| 1 | しかし | (2) | それで | (2) | ただし | (3) | つまり | (4) | なぜなら | (5) | ところで | (6) | | |

問(三) 傍線部(1)「数多」は二字で「あまた」と読む熟字訓です。このような熟字訓ではないものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

- い。
- | | | | | | | | | | |
|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|
| 1 | 田舎 | 2 | 七夕 | 3 | 為替 | 4 | 時雨 | 5 | 石畳 |
|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|

問(四) 傍線部(2)「ニツチもサツチも行かなくなってしまった」の意味としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

- | | | |
|----|---|----------------------|
| 10 | 1 | あれかこれかを選んでいる余裕がなくなった |
| | 2 | 何もしないまま、いたずらに先送りした |
| | 3 | 行き詰まって、どうにもならなくなった |
| | 4 | 深入りしすぎて、後戻りできなくなった |

5 どれを選べばよいのか迷ってしまった

問(5) 傍線部(3)「なぜ、二千年も過ぎていのに、この程度のものしか作れなかったのか」とありますが、筆者はその理由をどのように考えています

か。その説明としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

11

- 1 古代ローマへの憧れだけで造形能力に欠けていたから。
- 2 平和の樹立が困難なファシズムの時代であったから。
- 3 古代ローマ時代の円柱をただ模倣したにすぎないから。
- 4 イタリアにも第二次世界大戦の危機が迫っていたから。
- 5 自由な精神の活動が保証されていなかったから。

問(6) 傍線部(4)「物理的に断つ」とありますが、その具体例としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

12

- 1 仲のよい友だちに裏切られて、彼とは絶交した。
- 2 辞書よりもネット検索で漢字を調べるようになった。
- 3 ゴールデンウィークを利用して海外旅行をした。
- 4 テレビのコンセントを抜き、携帯電話の電源を切った。
- 5 大都会の生活が煩わしくなり、地方都市に移転した。

問(7) 傍線部(5)「私が勧めている」とありますが、筆者はどのようなことを勧めていますか。その説明としてふさわしいものを、次のうちから一つ選

び、その番号をマークしなさい。

13

- 1 自己防衛策として、「手段の目的化」に真剣に取り組む国政担当者に支持を与えること
- 2 精神活動の自由を守るために、公的な地位に立ったり、権力を持つたりしないこと
- 3 問題の本質を見失わないために、情報やデータを頭から信用せず、ときには意識して絶つこと
- 4 樹を前にしてケンケンゴウゴウやっている政治家たちの発言には一切耳を貸さないこと

5 いかなる犠牲を払ってでも平和の樹立を成し遂げようとする国政担当者を支持すること

問(八) 傍線部(6)「政治的動物」を筆者はどのような意味に理解していますか。その説明としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号を

マークしなさい。 14

- 1 手段については議論したり、それに同調したりするような人間
- 2 政治を信用せず、政治には一切関心を持たないような人間
- 3 森を見ることを決して忘れない政治家を支持するような人間
- 4 周囲に付和雷同して統治者を熱狂的に支持するような人間
- 5 平和を樹立するために自由な精神活動を行っているような人間

問(九) 本文から次の文が脱落しています。どこに戻すのがふさわしいですか。後群のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 15

「スバルタ式」という言葉が遺っただけである。

- 1 (1)
- 2 (2)
- 3 (3)
- 4 (4)
- 5 (5)

問(十) 本文の内容と合致しないものを、次のうちから二つ選び、その番号をマークしなさい。(解答の順序は問いません。) 16・17

- 1 日露・日中・日韓をめぐる諸問題の解決が困難であるのは、手段を目的化した結果にすぎない。
- 2 平和の樹立のような至高の目的のためなら、どんな手段を用いてもよいというわけではない。
- 3 ファシズム時代のイタリアと違い、古代ギリシアのスバルタは自由な精神の活動が保証されていた。
- 4 一国の統治者はもちろん、国民もまた「樹を見て森を見ず」にならないように注意すべきである。
- 5 情報過剰時代に生きるうえで、思いきって情報を断つということも自己防衛策としてあってよい。
- 6 「樹を見て森を見ず」では人間は政治的動物になってしまうが、「森を見て樹を見ず」もまた同様である。

3

次の各問いに答えなさい。

問(一) 次の漢字の読みが間違っているものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

1

- 1 溺れる(おぼ)れる
- 2 綻びる(ほころ)びる
- 3 憧れる(あこが)れる
- 4 潰す(つぶ)す
- 5 嘲る(ののし)る

問(二) 次の漢字の読みが間違っているものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

2

- 1 爽快(そうかい)
- 2 曖昧(あいまい)
- 3 把捉(はそく)
- 4 貪欲(ひんよく)
- 5 唾棄(だき)

問(三) 次の漢字の画数が間違っているものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

3

- 1 糸(6画)
- 2 凹(6画)
- 3 互(4画)
- 4 喪(12画)
- 5 発(9画)

問(四) 「いやしくも」の意味としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

4

- 1 少なくとも
- 2 おそらく
- 3 ほとんど
- 4 かりにも
- 5 せいぜい

問(五) 次のことわざの漢字が間違っているものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

5

- 1 他山の石
- 2 百聞は一見にしかず
- 3 孫にも衣装
- 4 漁夫の利
- 5 角を矯めて牛を殺す

問(六)

次の四字熟語の意味としてふさわしいものを、後のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

6

四面楚歌

- 1 人の迷惑をかえりみないこと
- 2 誰に対しても如才なくふるまうこと
- 3 むやみに他人の意見に同調すること
- 4 誰からも相手にされないこと
- 5 周囲が敵対者ばかりであること

問(七)

次の四字熟語の空欄 に入る字を、後のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

7

然盲若

- 1 漫
- 2 泰
- 3 安
- 4 悠
- 5 平

問(八)

作品とその作者の組み合わせが間違っているものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

8

- 1 破戒 (島崎藤村)
- 2 それから (夏目漱石)

- 3 人間失格（太宰治）
- 4 たけくらべ（与謝野晶子）
- 5 細雪（谷崎潤一郎）

問(九)

次の文の傍線部の品詞としてふさわしいものを、後のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

9

これがいわゆるフェイクニュースというやつだ。

- 1 名詞
- 2 動詞
- 3 形容動詞
- 4 副詞
- 5 連体詞

問(十)

対義語の組み合わせが間違っているものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

10

- 1 解散―集合
- 2 派手―地味
- 3 目的―手段
- 4 尊敬―軽蔑
- 5 当然―偶然

問(十一)

「霜月」は何月にあたりますか。ふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

11

- 1 二月
- 2 六月
- 3 九月
- 4 十一月
- 5 十二月

問(十二)

敬語の使い方が間違っているものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

12

- 1 私の部下の名を存じてますか。
- 2 会長がお越しになりました。
- 3 冷めないうちに召し上がれ。

- 4 明日の夕方にかがいます。
- 5 先方に申し上げてください。

設問は以上です。